

ごあいさつ

当社は、1910年、箕面有馬電気軌道として宝塚本線梅田－宝塚間、箕面線石橋－箕面間で営業を開始し、2010年3月10日をもって開業100周年を迎えることができました。これもひとえに、明治から大正、昭和を経て一世紀もの間、当社をご愛顧いただいたお客様のおかげでございます。厚く御礼申し上げます。この間、約400億人のお客様にご利用いただく中、車両は約86億km、地球を21万5千周も走り続けてまいりました。この100年の歩みは、お客様と沿線の皆様の暖かいご支援の賜物であり、感謝の気持ちとともに、次の100年への重責をあらためて再認識いたしております。

これまでの100年、多くの苦難に挑みながらも皆様のご期待にお応えできるよう取り組んで参りましたが、2009年度は世界同時不況からの回復途上において新型インフルエンザの打撃を受け、改めてリスク管理の重要性を痛感した1年になりました。幸い、列車の運行に影響するような事態には至りませんでしたが、より安全で、より安心、より快適な鉄道を提供して、地域社会の重要な役割を果たしていけるよう、これを機会に危機管理体制等の再整備を実施いたしました。また、分社化していた駅運営部門を再統合し、駅管理業務を一体的に運営することより、運転と駅との連携や組織力を強化し、安全管理体制のさらなる充実を図りました。その結果、安全目標である「有責事故ゼロの継続」も7月1日現在で11,850日に達しております。その他、過去から得た教訓や経験の風化防止への取り組みの一つとして2009年5月に「安全考学室」を開設し、過去の重大な事故の映像や数々の資料等を基にして、事故の発生状況や対策の他、規程や保安設備が整備された背景も学習できる環境を整え、新たな社員教育の場として活用を始めました。この1年間で約4,000名の社員や関係者が訪れる等、安全最優先の意識の浸透・定着へ、順調に効果をあげているところでございます。また、安全管理体制の構築やその取り組みが国土交通省によって評価され、毎年行われる「運輸安全マネジメント評価」は、1年間の延長措置を受けました。しかしながら、軽微な事故やトラブルは皆無ではなく、今後も各課題の分析と対策を実施して、ヒューマンエラーの撲滅とさらなる安全意識の醸成と安全管理体制の強化に向けて取り組んでいく所存でございます。

安全投資につきましては、2010年度も引き続き高架化工事等の大規模工事をはじめ、運転保安やサービス改善関連工事を重点的に実施してまいります。淡路駅や洛西口駅・今津線西宮北口駅付近の高架化工事の他、宝塚線の新型ATSとともに踏切やホームの保安対策も鋭意進めてまいります。また、神戸線や宝塚線には9000系車両を投入し、サービスと保安度の向上を図る予定です。さらに社員の能力向上を目指し、教育や訓練の内容を充実させる等、安全の根幹である人材育成にも積極的に取り組んでまいります。

この安全報告書は鉄道事業法第19条の4項に則り、2007年度以降、毎年作成し、ホームページや冊子等で皆様に公表してまいりました。これからも、公共交通機関の使命を果たすべく、PDCAサイクルを機能させて、お客様第一・安全最優先の強く堅い意志によって、100年先まで続く安全を追及して、より一層みなさまに愛される会社を築き上げるよう邁進してまいります。

阪急電鉄株式会社 取締役社長

南 和夫

